## 地元の森を学び舎に

report

自然環境から学ぶ幼児教育 智頭町 森のようちえん「まるたんぼう」



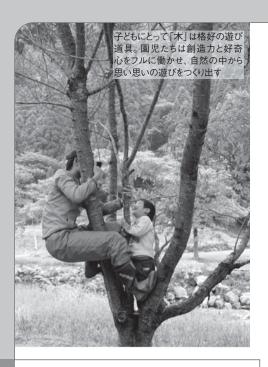
保育士が絵本の読み聞かせをする「かえりの会」。他 にも手遊びや歌、一人ひとりのあいさつなど、朝礼と終 礼にはじっくりと時間をかけ、子どもの集中力を高める

弁当、おやつ、水筒、着替えなどが詰まったリュック サックを背負い、山の斜面やでこぼこ道を歩く。「お 散歩」の積み重ねにより子どもの心と体は鍛えられる





代表の西村早栄子さんと次女の安旦ちゃん。「森のようちえ んを広め、智頭町へ移住する子育て世帯を増やしたい」と抱 負を語る西村さんの子どもも『まるたんぽう』 に通っている



## 「まるたんぼう」問い合わせ先

〒689-1442 鳥取県八頭郡智頭町大屋407 TEL:0858-78-6789

http://marutanbou\_tizu@yahoo.co.jp



調理には地元の薪を使う。この日の"火つけ担当"は年長の駿くん (手前左)。担当は交替制で、毎回、園児が責任を持って火をおこす



木曜日は園児が昼食をつくる「クッキングの日」。 ューはごはんと味噌汁で、材料は各自が持ち 寄る。包丁使いは手馴れたもので、調理の進行 や役割分担、後かたづけも園児が自主的に行う



薪で炊いたごはんは格別においしい。自然の中で は食欲が進み、ほとんどの子どもがおかわりをする

奥の原生林まで、 点とする。その野外活動の中心となるのが 園舎は持たず、 9カ所のフィー

> 日々実感しているという。 京子さんも毎日森へ入り、

もを見守っています」。そう語る園長の熊谷

子どもの成長を

る運営が特徴である。

がら生きる力を身につけています」と話す 子どもは自然の中で毎日新しい発見をしな 出してくれる場所の一つ。お散歩で遊びの創 どもの好奇心を掻き立て、エネルギーを引き スに合わせる、待つ保育、が基本です。森は子 子どものやりたいことを尊重し、 造力を広げたり四季の移ろいを感じたりと、 「川遊びや木登り、 虫や植物の観察など、 個人のペー

## 森の中で生きる力を身につける

住してきたという代表の西村早栄子さん。

頭町の自然にひか

れ、県外から

も徐々に認知度が向上し、 えん」はデンマークが発祥で、 に発足した森のようちえん『まるたんぼう』 も受けており、 在は鳥取県の「森林環境保全税」からの助成 に2009年4月に開園 の父母らが発起人となり、 の園児は、 を駆け回る。鳥取県南東部にある八頭郡智頭 子どもたちが、歓声をあげながら杉木立の間 クサックを背負い、おそろいの熊鈴をつけた 『まるたんぼう』は智頭町に住む子育て世代 自然環境で幼児教育を行う「森のようち 清々しい空気に満ちた朝の森の中、リュッ 面積の4%を山林が占める緑豊かな町 々な団体が取り組み始めている。 雨の日も雪の日も森 行政と町民の強い連携によ した任意団体。 町の支援をもと 幼稚園や保育園 近年、 へ出かける。 日本で 現

子どもが自主的に行動する「お散歩」だ。 町周辺の開けた森から山 ルドを拠

> が一 グとい 環境だからこそ、 食をつくる様子を見学。 歩」に加えて週2回、 共働き世帯にも対応している。保育の内容は 伴が必要。また、夕方までの預かりが可能で ら5歳児で、3歳までの子どもは保護者の同 は指導者というよりも、 意識を持って取り組む姿が印象的であった。 気遣い手を貸すなど、相手を思いやり、 た木曜日はクッキングの日で、 月曜から金曜まで、 保育士2名が行う。 園児の数は現在13名。引率は園長と専属 たくさんの気付きを与えてくれる自然 に調理を行い、年長が年少の子どもを った活動も行っている。 自主的に学べる。 毎日午前中に行う「お散 ものづくりやクッキン 対象年齢は1歳児か 観察者として子ど 年齢に関係なく皆 園児たちが昼 取材に訪れ 私たち

どもは地域の財産であり、その育ちの にも貢献する『まるたんぼう』の活動に、 世代の若い世帯を引きつけ、 過ごした子どもたちの将来が楽しみだ。 して森が果たす役割は大きい。 家族が鳥取市内から移住してきた。子育て 土と人がつくり上げた森、そこで幼児期 も期待を寄せている。心身ともに健全な子 昨年、『まるたんぼう』への入園を希望する 地域の活性化 智頭町

(文責・CEL編集室